

令和7年秋季（9～10月）シラス漁況予報

水産技術センター
 令和7年9月17日

今後の見通しのポイント

秋シラス（9～10月）：低調であった前年並～上回る

1. 現在までの海況、漁況等の状況

(1) 海況

○水温（大阪湾、10m層）

本年の大阪湾の水温は、2月を除き、平年並み～甚だ高めで推移しています（図1）。気象庁による9～11月の近畿地方における天候見通しでは、気温は平年より高くなる確率が60%、平年並となる確率が30%と予想されていることから、今後の水温は平年並～高めで推移すると考えられます。

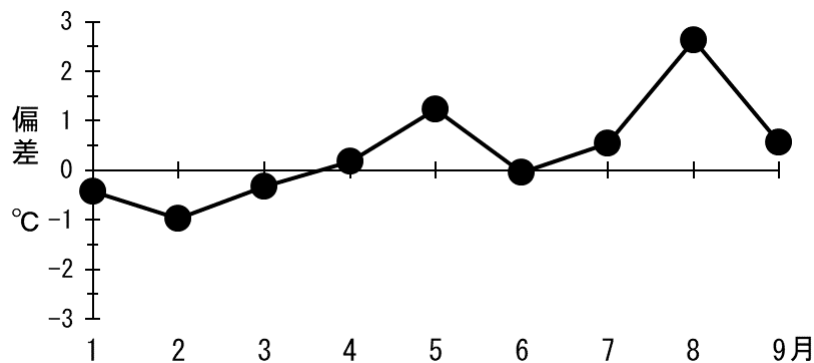


図1 大阪湾の水温平年偏差（10m層、大阪湾20定点平均）

○黒潮（潮岬正南沖）

潮岬沖の黒潮は、2017年8月以降、離岸傾向が継続していましたが、本年5月以降は接岸の兆候がみられています（表1）。なお、気象庁は、2017年8月から続いた黒潮大蛇行が、2025年4月に終息したことを正式に発表しました。

表1 潮岬沖黒潮の離岸距離					単位：海里（1海里=1852m）							
年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2022年	176	156	150	166	174	154	218	158	165	139	145	146
2023年	171	190	188	126	195	191	171	145	145	100	119	104
2024年	93	115	136	121	99	95	85	96	133	109	119	136
2025年	160	189	118	108	73	41	49	54	38			

※本年9月は上旬まで、網がけは離岸傾向を示す

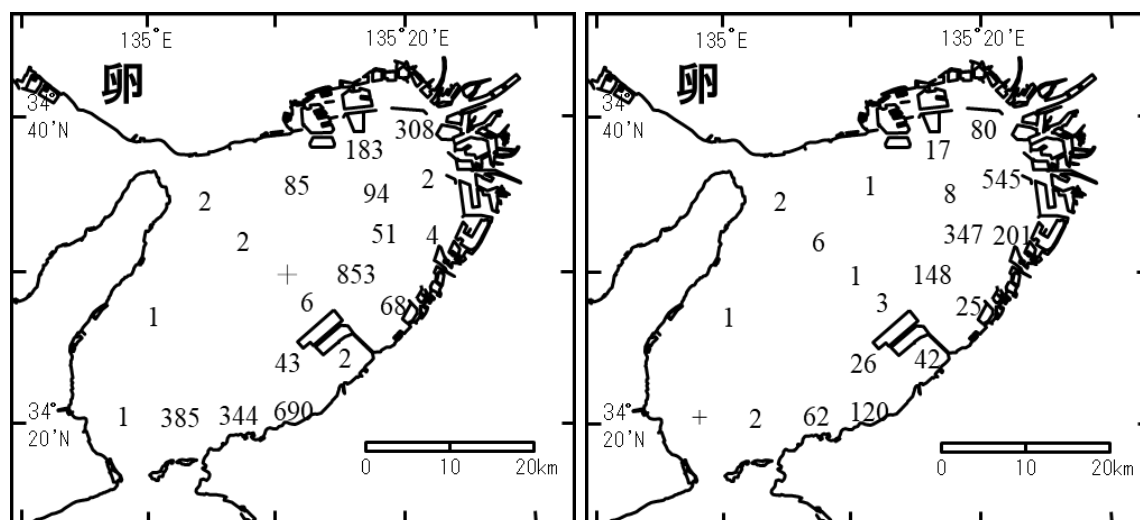
※表中の値は海上保安庁「海洋速報」のデータから算出

本年の大阪府におけるシラス漁は、5月8日から本格的に開始されました。漁開始当初は黒潮が離岸状態にあり、紀伊水道からのシラスの補給が期待できない状況の中、漁は散発的に行われました。その後、5月末以降に湾内発生とみられる群の加入があり、6月下旬まで前年同時期を上回る漁獲が続きました。しかし、6月下旬以降に漁況が悪化し、8月末まで低調な漁獲が続きました。その後、9月に入ってまとまった漁獲があり、以降は前年同時期を上回る漁獲が続いています。シラスの種組成は、5月下旬時点でカタクチシラスが95%以上を占め、5月末以降はほぼカタクチシラスのみとなりました。

本年のカタクチイワシ卵は、8月は大阪湾の一部海域を除く湾全域で、9月は主に大阪湾東部海域で採集され、8月はプランクトンネット1曳網当たり156粒、9月は82粒でした。これを平年、前年と比較しますと、8月は平年の400%、前年の390%、9月は平年の328%、前年の456%と、平年および前年を大きく上回りました。また、稚仔の採集数は、8月は平年および前年を下回り、9月は平年を下回り、前年を上回りました。(8月は平年の6%、前年の60%、9月は平年の16%、前年の267%)。

表2 カタクチイワシ卵の採集数（本年は速報値）

表3 カタクチイワシ稚仔の採集数（本年は速報値）[illegible]



2025年8月 2025年9月
 図2 カタクチイワシ卵の採集数（プランクトンネット1曳網あたり）
 ※ 図中+は出現なし

2. 漁況予測

この時期のカタクチイワシの卵は産卵されてからシラスとして漁獲され始めるまで約3週間、主漁獲対象になるまで1ヶ月弱かかります。そのため8、9月の卵稚仔の量と、この間の生き残りが秋シラスの漁獲量に大きく影響します。

本年8、9月の大阪湾におけるカタクチイワシの発生量は、卵および稚仔の採集状況から全体として前年を上回る水準であると推定されます。しかし、8、9月の稚仔の採集状況から、生き残り条件については前年と同様悪い可能性があります。

以上のことから、**本年秋季（9～10月）のシラス漁は、低調であった前年並～上回る漁となるでしょう。**

近年は、晩秋季の11月以降もシラスが漁獲されるため、平成21年より秋季シラスを前半（9～10月）と後半（11～12月）に分けて予測しています。

今後も大阪湾におけるカタクチイワシの産卵状況については毎月中旬ごろに発表するとともに、後半の秋季シラス漁況予測については、今後の卵の出現、親魚の状況、海況、他県の漁況等から10月下旬頃にあらかじめ発表する予定にしておりますので、参考にしてください。